

# 事業・財務報告

## 事業報告（平成18年度）

ここ数年来、我が国を取り巻く国際情勢の変化に加え、学校教育法や私立学校法の改正及び少子高齢化を含めた社会情勢や環境の中で、教育界も大きな転換期を迎えている。

学校法人文化学園は平成18年度においても、当学園の運営が一層厳しさを増している状況下にあることを認識しつつ、安定的な基盤を作ることに尽力し、21世紀におけるわが国の服飾文化やそれに伴う科学の領域、及びファッション産業界を担うために、当学園が与えられた社会的・教育的使命としてカリキュラムを創造・改革し、文化学園独自の教育体系を作り上げ、人材の育成を行っていく。

これらのことを踏まえ、平成18年度の学園の重点方針として事業計画を策定し、その運営を行った。

### 1. ファッション産業界や教育界とのコラボレーション

コラボレーションとして積極的に展開する相互交流により、新しい教育とグローバルな視点での創造を行う。

#### 1) 国内教育、研究機関とのコラボレーション

5月に学校法人文化学園と国立大学法人信州大学と協定を結び、連携協議会を発足し、今後の交流の中で相互の教育、研究の連携を図ることとなった。

相互に「ファイバー・テキスタイル・アパレル&ファッション大学院連携教育」を構想し、「先進ファイバー工学技術、ナノ素材技術感性評価技術」と「ファッションデザイン、テクノロジー、マネジメント」の融合を目指す。

文化女子大学は早稲田大学オープン教育センターとのコラボレーションにより、平成19年度前期コラボレーション科目において、本学全学生を受講対象とした「早稲田大学で学ぶファッションビジネスを通じて考える経営システム工学」を開講することとした。

## 2) I F F T I および海外ファッション教育、研究機関との交流促進

6月 第8回I F F T I年次総会 米国 ノースカロライナ州立大学 に常任理事、女子大学服装学部長、学院専任講師が出席し、「デジタル時代のファッション」をテーマに講演や研究発表があり、学院専任講師も研究発表を行うなど、I F F T I会員校と積極的な交流を行った。なお、第9回年次総会(カナダ、ライオンソン大学)で実施された、「パーター靴デザインコンテスト」に学院から3名応募し、シューズデザイン科の学生が2位を受賞した。

英国を代表するI F F T I会員校、ロンドン芸術大学(ロンドン カレッジ オブ ファッションなど)と提携し、短期および長期の留学制度の交渉を行う。

同時に、大学・造形学部の学生向き海外プログラム開発のため、英国のUCCA芸術大学とも提携し、今後、短期・長期研修プログラムの交渉に入る。

アジアでは、韓国の安養科学大学、青江文化産業大学と提携し、短期交流プログラムを開始した。

文化ファッション大学院大学では9月にデンマークの「サガ インターナショナルセンター(毛皮専門の研修機関)」で行われた研修会にデザインコース担当助教が招待参加し、毛皮の知識やテクニクなどの講義を受講。

国際交流センター主催で4月、5月、9月、11月に英国、仏国など海外のファッション大学から第一人者を招き、大学、学院において特別セミナーやワークショップを開催し、延べ1,400名が参加した。

## 3) 実践的海外研修の実施

10月、国際ファッション文化学科の学生が、米国のシアトルセントラルコミュニティカレッジにて親善交流ファッションショーを行った。2回の公演を行い、学生たちは日頃の授業の成果を存分に披露した。貴重な体験と、視野を広げることができた有意義なプロジェクトとなった。

## 4) J F W (ジャパンファッションウィーク) への参加

学院では秋のJ F W(日本ファッションウィーク)において、東京の新丸ビルのスイス政府支援の「ダイナミックスイス」のファッションショーの中で発表した。これは工科専攻科とジュネーブデザイン大学ファッション学科の学生が、双方の国を訪問し、ワークショップを開催。その作品をスイスの対日キャンペーンとしてJ F Wにて行ったものである。

春は日本橋横山町の問屋街主催でこの数年間に卒業した若手デザイナーに学生が協力する形でショーを行い、マスコミからも高い評価を得ることができた。

文化ファッション大学院大学では9月のJFWの一つとして、ファッションクリエイション専攻ファッションデザインコース1期生によるファッションショーを伊勢丹新宿店において行った。次世代のファッションを担う学生代表6人が自己のコンセプトに基づいたファッションショーを展開した。

## 5) 学院のファッション系企業等とのコラボレーション

問屋街活性化企画「トンヤ・de・サファリ」

昨年度より日本橋横山町の活性化委員会を窓口として、横山町問屋街とファッション流通課程全科とのコラボレーションを行い、問屋流通の特別講義や、横山町の商品を学生がコーディネートし、それを店舗ディスプレイするなど、問屋街の活性化を共同企画している。また、本年度から服装科による商品企画の活動も始まった。

メンズシャツ講座、スポーツアパレルゼミ

企業からの講義、指導を受けながらウェアの商品企画、プレゼン、作品製作を行い、ショー形式の発表なども行った。

帽子、バック及びシューズメーカーに企画提案

ファッションクラフトデザイン科、バッグデザイン科、シューズデザイン科の学生が各々の専門性を生かした中で企業と共同企画、デザイン提案を行った。これを企業が製造し、スーパーでの販売も試みられた。

## 2. 文化ファッション大学院大学を開学

平成18年度より文化ファッション大学院大学を開学し、初年度はファッションクリエイション専攻38名、ファッションマネジメント専攻11名、合計49名の入学者によりスタートとなった。

6月28日に、関係省庁、産業界関係団体の運営委員を来賓として開学式を実施した。来賓からは本学の人材育成教育に対しての大きな期待が寄せられた。

カリキュラムの充実と実現を行う中で、大学院レベルの高度な職業人教育を担っていくための教育環境や実習室の整備を行った。

校舎改修工事（実習室及び講義室等）

F館1階 コンピュータニット実習室

D館1階 生産工学実習室

E館1階 デジタルテキスタイル演習室

館 B 1 実習室  
館 2 階 コンピュータ次週室、4 階 アパレル C A D 実習室  
H 館 4 階 大講義室、講義室

等

完成年度である平成 19 年度及びその後に向けてカリキュラム委員会を立ち上げ、コースの内容や位置づけについて検討し、より魅力ある教育の構築を目指す。

### 3 文化服装学院に 4 年制コースを新設

文化ファッション大学院大学への一貫した教育課程の整備を図るため、平成 19 年度より、ファッション工科専門課程に 4 年制の「ファッション高度専門士科」を設置すべく、大学で学ぶ以上のカリキュラムやプログラムの策定を行い、募集活動を行った。応募者は定員を越える人数となり、初年度入学生は 55 名となった。この卒業生には高度専門士の資格が付与される。

また、従来の「ファッション工科専攻科」に替わるファッション高度専門士科 4 年次への編入学生は 18 名である。

### 4 . 学園内の I T 機能の向上を含め、教育ネットワークを中心にインフラ整備等を推進

文化学園 I T 推進室を設置し、平成 18 年度は 3 ヶ年計画の 1 年目として、教育系ネットワークの基盤整備を中心に行った。

教育系ネットワークやセキュリティーを十分考慮したインターネットシステムを構築し、P C 教室・オープンメディアルームでは平成 18 年 10 月より運用を開始。

この構築のため補助金申請（大学 - 文科省・学院 - 東京都）を行い採択された。

学生ポータルサイト構築へ向けて学生全員にアカウント（メールアドレス）の配布を計画しており、学校のアカウント（アドレス）で学内外からメールの使用が可能となる。さらに学校情報の発信も可能となる。実施は 19 年度上半期を予定。

学生の持ち込みパソコンに対応する環境を整備。使用開始は 19 年度上半期を予定。第 期に向けて、大学事務システムや学内データ（F R C ・博物館・図書館）の活用等の検討を行う。

## 5 . 広島アートファッションアカデミー等の運営を検討

同校は平成18年3月に当学園と合併し、平成19年3月に前法人校からの2年生の在籍者が卒業するので、これを待って平成19年度から広島アートファッションアカデミー及び広島高等洋裁女学院を休校とした。当法人として今後の運営を検討する中で、平成20年度から「専門学校 文化服装学院 広島校」としてファッション教育の継続を行うこととし、平成19年度に校名変更、学則変更及び寄付行為の変更等を行い、募集活動を開始することとした。

## 6 . 文化女子大学室蘭短期大学、附属幼稚園の運営方針について検討

### 1) 室蘭短期大学

平成18年4月の臨時教授会において、コミュニティ総合学科を平成19年度から学生募集停止を決議し、5月の理事会において正式決定した。

平成19年度の学生募集は保育科のみの活動となったが、学生増には結びつかず、平成18年10月の臨時教授会において、室蘭短大の今後については理事会に一任することを決議し、平成19年2月の理事会、評議員会において平成20年度からの保育科の学生募集停止が決定した。

これを受けて、室蘭市をはじめ、在校生、保護者、G会に対し説明会等を開き理解を求めた。

### 2) 附属幼稚園

#### 創立30周年記念式典

平成18年10月21日(土)に創立30周年記念式典を挙行了。卒園児の父母等54名の出席があった。

#### 園児募集の停止

短期大学保育科の学生募集停止を受け、附属幼稚園も平成20年度より園児募集を停止することとした。短大の説明会と同じく市や保護者、関係者等に説明会を開き、理解を求めた。

3年保育で受け入れた3歳児12名の内、6名は他の園に移った。

## 7. 文化出版局の周年記念企画

文化出版局は学園の教育部門の発展に向け、収益部門の役割を明確にし、併せてファッション情報の発信地としての機能を持ち、教育面やファッション産業に寄与している。出版局の主力雑誌2誌が創刊の周年に当たり、編集、営業面において特別企画として対応した。

### 1) 雑誌「装苑」創刊70周年

1936年、文化裁縫女学校が「文化服装学院」と改称したその年に服装研究雑誌として「装苑」が創刊され、70周年となった。この「装苑」創刊70周年記念企画として、10月号では特集に合わせて8月29日～9月10日まで、ラフォーレ原宿において創刊70周年記念スペシャルイベントを開催した。大学と学院の在校生、学院OBたちも参加したファッションショーに来場者は16,000名にのぼり、大成功のうちに終了した。今回のイベントを通じてファッション雑誌「装苑」のパブリシティが展開できただけでなく、文化学園の雑誌広報メディアとしての重要な役割を担った。

さらに、18年度を通じて「装苑」本誌も、販売部数、販売売上、広告売上の全てにおいて飛躍的な伸長を遂げた。

### 2) 雑誌「ミセス」創刊45周年

「ミセス」も2006年に創刊45周年を迎え、これを記念してミセス大賞「家族をつづる一枚の写真」を主催した。11月にはパークハイアット東京にて受賞作品展も開催された。ミセスのクオリティの高い編集内容がスポンサーに評価され、広告の実績においては前年比109%ととなった。

## 8. 外国語教育の充実を図り、ファッション分野における国際人の育成

文化女子大学現代文化学部においては、国際的な視野を養うため、海外留学の機会を学生に提供している。海外で学ぶ積極的な行動を支援するため、授業科目としてTOEFL、と上級TOEFLの講座を設けている。また検定試験を受けやすくするため、学内においてTOEFLやTOEICの試験を実施し、学生の英語能力向上を図っている。特に提携校である米国FITや英国のノッティンガムトレント大への留学希望者は、その条件ともなっているTOEFL550点をクリアできるような指導を行っている。

ファッション大学院大学、学院ではファッション英会話、ファッションビジネス英語の講座を設け、ファッションに特化したものを教えている。

## 9 . 府中女子専門学校の廃止

平成15年度より府中女子専門学校を休校とし、今後の運営について検討していたが、文化服装学院への通学が可能なエリアであるため、廃止とした。今後は文化学園府中キャンパスとして、学園や文化女子大学の教育関連施設として使用していく。図書館の書庫の一部としても利用する。

## 10 . 文化ファッションビジネススクールの廃止

文化ファッション大学院大学の開学で、新入生の募集を停止しており、平成19年3月に在籍者の卒業をもって廃止とした。